

埼玉県衛生研究所報

ANNUAL REPORT
OF
SAITAMA INSTITUTE OF PUBLIC HEALTH

No. 23

1989

埼玉県衛生研究所

第23号 平成元年

ま え が き

平成元年度の埼玉県衛生研究所の所報がまとまり、皆様に御覧頂くことになりました。

衛生研究所の4つの機能の中に、公衆衛生情報の解析とその結果を世に提供するという業務があります。所報の中には、他の3つの機能、即ち検査情報、調査研究による情報、研修の状況等が含まれております。いわば衛生研究所の1年間の業務を集約したものであります。

また埼玉県という地域の公衆衛生の状況の一端を示すものであり、長い歴史の変遷の一齣でもあります。

その意味で一地域、一年という断面の情報ではありますが大事なものです。私共はその意味を心しなければいけないと思ひますし、胸を張って世に送り出してよいと思ひます。

衛生研究所からの情報は、全国的に収集され、環元されているのは極く一部分で、残りは全国的な意味で解析され、提供されてはおりません。従って公衆衛生の向上に、衛生行政の基礎として充分役立つことができないでおります。

地方衛生研究所としては、微生物検査情報を中心として、感染症サーベイランス患者情報に加えて解析した情報、また衛生化学、生活環境等に関する情報のオンラインによるネットワークシステムの実現を熱望しております。これは単に衛生研究所の機能を充実させるだけでなく、解析された全国の公衆衛生情報を国民の保健に役立てることでもあります。

何れにしても、所報に盛られた情報は、年次的にも地域的にも不可欠であります。また時には西ドイツの市の図書館より贈呈を要請されたこともあり、一層心を引き締めなければいけないと思っております。

御参考にして頂ければ幸ですし、また御批判を仰ぎたいと思っております。

平成元年12月

埼玉県衛生研究所

所長 方波見 重兵衛

目 次

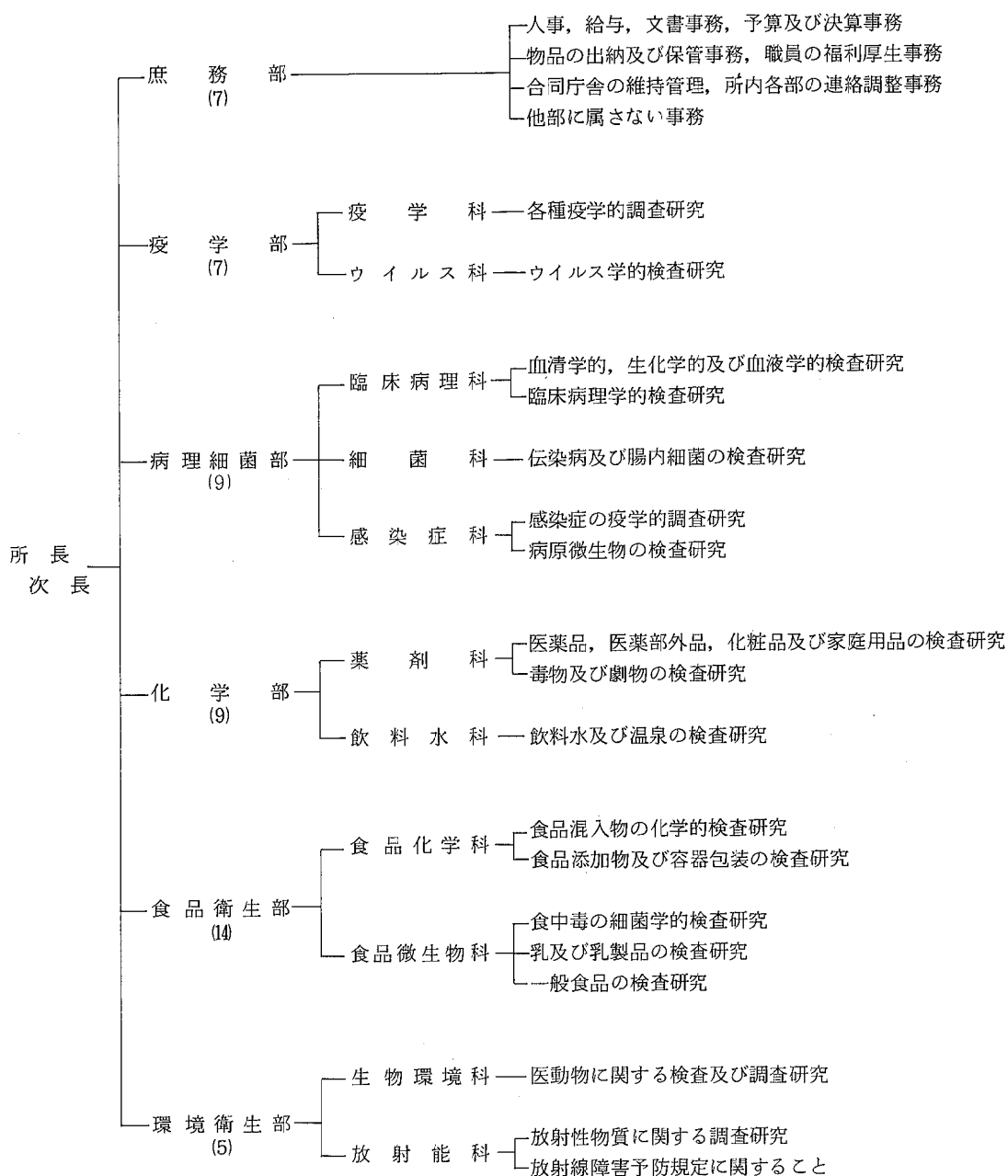
1	沿 革	1
2	組織及び事務分掌	2
3	職 員	3
	(1) 職員の配置状況	3
	(2) 職員名簿	4
4	業務報告	6
	(1) 疫 学 部	6
	(2) 病理細菌部	9
	(3) 化 学 部	14
	(4) 食品衛生部	15
	(5) 環境衛生部	19
5	研修業務	21
	(1) 保健所等職員の技術研修実施状況	21
	(2) 所内職員の研修実施状況	22
	(3) 海外研修生の研修実施状況	22
	(4) 所内セミナー実施状況	23
6	調査研究（論文）	
	ヒト血清中のナトリウム，カリウムについて	25
	埼玉県感染症サーベイランス情報における地区別・年齢階級別患者発生状況	30
	海外旅行者による感染症の実態とその対策に関する研究	
	I 海外旅行者下痢症の病原菌検査（1988年）	50
	埼玉県におけるB型肝炎ウイルス感染の血清疫学調査	57
	点眼剤中のアラントインの安定性について	62
	オゾン処理室内プールの水質について	64
	ビストリブチルスズオキシド（TBTO）による魚介類への汚染について（第Ⅱ報）	69
	高速液体クロマトグラフィーによる鶏肉中のポリエーテル系抗生物質の定量	73
	荒川河川敷における野ネズミ捕獲によるツツガムシ調査	79
	浦和市郊外の水田地帯におけるコガタアカイエカ幼虫の生息数と分布型	84
7	調査研究（ノート）	
	埼玉県における感染症サーベイランスによる麻疹の患者発生状況（1987年11月～1988年6月）	91
	エンザイグノスト試薬による麻疹抗体検出と定量法に関する検討	97
	埼玉県におけるボツリヌス菌の分布	
	1. 食品からのボツリヌス菌の検出状況	102
	配合飼料及び鶏卵中のアフラトキシン汚染について	104
	魚類中の有機スズ化合物汚染調査結果について	107
	鮮魚介類の病原ビブリオ汚染実態調査	110
8	資 料	
	埼玉県の腸管系病原菌検出状況（1988年）	113
	埼玉県内で分離されたヒト及び環境由来サルモネラの血清型と薬剤耐性（1988年）	116
	粉碎によるフロセミドの定量値の減少について	119
	水道の水質検査結果について（昭和63年度）	121
	昭和61農薬年度における埼玉県及び全国の農薬出荷量について	125
	埼玉県における空間線量率の測定結果について（昭和59年度～昭和63年度）	129
9	紹 介	
	公衆衛生情報データベースの構成について	133

Gas Chromatographic Determination of Nicotin-amide in Meats and Meat products as 3-Cyano-pyridine	133
埼玉県感染症サーベランス情報における地区別・年齢階層別患者発生状況	133
埼玉県におけるウイルス性胃腸炎の発生	134
1987年度インフルエンザの血清疫学調査	134
SRSVによる食中毒様集団発生	134
埼玉県において分離されたサルモネラの血清型および薬剤耐性について	134
コレラ菌およびNAGビブリオの毒素産生性について	135
キササゲ (Catolpae Fructus) の水抽出物から単離したイリドイドの変異原性について	135
Isoquinoline系アルカロイドの変異原性について	135
精油の揮発成分によるヤケヒョウヒダニ, コナヒョウヒダニ及びケナガコナダニに対する殺ダニ効果	135
アラントインの安定性について	136
植物中の発癌プロモーター活性の検索	136
蒸発計による蒸発量の観測結果について	136
Formation of Cyanogen Chloride by the Reaction of Amino Acids with Hypochlorous Acid in the Presence of Ammonium Ion	137
アンモニウムイオン共存下ペプチドと塩素との反応による塩化シアン生成	137
高速液体クロマトグラフィーによる製剤中のスピラマイシンの定量	137
高速液体クロマトグラフィーによる養殖中の合成抗菌剤の一斉分析	138
高速液体クロマトグラフィーによる養殖中の水産用医薬品の一斉分析	138
フォトダイオードアレイ検出器を用いた高速液体クロマトグラフィーによる食肉中のスルファジミジンの分析	138
Isolacton of Virginiamycin-M ₁ by Droplet Counter-Current Chromatography	139
High-performance Liquid Chromatographic Determination of Virginiamycin in Premixes and Feeds	139
Determination of Diketopiperazine in Soft Drinks by High Performance Liquid Chromatography	139
ガスクロマトグラフィーによるニンニク製品中のアリインの分析	140
高速液体クロマトグラフィーによる鶏肉, 豚肉中のバージニアマイシンの定量	140
食鳥と食中毒細菌	140
豚における Yersinia 菌の保菌状況ならびに枝肉の汚染状況について	141
ホウ酸毒餌トラップによるクロゴキブリの駆除実験	141
埼玉県における放射能調査 (昭和62年度)	141
小中学生の肺換気能力測定について (フローボリューム曲線を含む1,451名の検討)	141
農村における呼吸機能の検査成績について	142
10 著者名索引	143
11 投稿規定	145

1 沿革

年 月 日	概 要	備 考
昭和22年11月4日	衛生部の設置と同時に、警察部所管として明治30年に発足した細菌検査所を衛生部の所管とした。	
昭和25年10月	大宮市浅間町に食品衛生試験所を新設し、食品、環境、衛生獣医などに関する試験検査業務を開始した。	
昭和28年2月15日	大宮市吉敷町1丁目に庁舎を新築し、細菌検査所と食品衛生試験所の業務を合併して、埼玉県衛生研究所として試験・検査・研究業務を行うことになった。 衛生研究所には、庶務課、病理細菌部（3科編成）、化学部（2科編成）、衛生獣医部（2科編成）及び生活科学部（2科編成）を設置した。	庁舎所在地 大宮市吉敷町1丁目124番地
昭和28年12月11日	開所式を行った。	
昭和32年12月5日	放射能研究室を新築増設した。	
昭和37年9月12日	ウイルス研究室を新築増設した。	
昭和40年5月1日	病理細菌部に3科、化学部に3科、疫学部2科及び環境衛生部に3科を設置し、1課4部（11科）制とした。	
昭和43年11月1日	公害研究部（2科）を設置し、1課5部（13課）制とした。	
昭和44年5月1日	庶務課を庶務部と改正し、6部（13科）制とした。	
昭和45年10月1日	公害センター設置により公害研究部を廃止し、5部（11科）制とした。	
昭和47年4月1日	浦和市上大久保に新庁舎を新築した。	庁舎所在地 浦和市上大久保639-1
昭和47年5月16日	大宮庁舎から移転し、業務を開始した。	
昭和47年5月26日	開所式を行った。	
昭和48年7月1日	食品衛生部（2科）を設置し、化学部を2科とし、6部（12科）制とした。	
昭和49年5月29日	衛生研究所敷地内に動物舎を新築した。	
昭和50年5月1日	組織改正に伴い、従来の科名を県民になじみやすいように科名変更を行った。	
昭和52年4月1日	環境衛生部に廃棄物科を設置し、6部（13科）制とした。	
昭和54年3月8日	検査棟（放射能研究室）を新築増設した。	
昭和57年4月1日	組織改正により、環境衛生部衛生工学科、廃棄物科を公害センターに移管し、6部（11科）制とした。	
昭和60年4月1日	組織改正により、感染症科を疫学部から病理細菌部へ、ウイルス科を病理細菌部から疫学部へ移管した。	

2 組織及び事務分掌



3 職員

(1) 職員の配置状況

(平成元年4月1日現在)

職別 部別	事務吏員			技術吏員							その他の吏員				合計					
	部長	主任	主事	計	所長	次長	部長	専門調査員	科長	主任	主任	技師	計	主任(技)	主任(技能)	技師	技師(技能)	計	科別	部別
所長					1								1							1
次長						1							1							1
庶務部	部長	1					1												1	
	事務吏員		4				4							2				2	6	
疫学部	部長						1						1						1	
	疫学科								1			1	2						2	
	ウイルス科							1	(1)		2		3		1			1	4	
病理細菌部	部長						1						1						1	
	臨床病理科										2		2						2	
	細菌科								1		1	1	3		1			1	4	
感染症科								1		1		2						2		
化学部	部長						(1)						(1)						(1)	
	薬剤科								1		4		5						5	
飲料水科								1	1	2		4							4	
食品衛生部	部長						1						1						1	
	食品化学科								1		4	1	6		1			1	7	
	食品微生物科								1	1	3		5		1			1	6	
環境衛生部	部長						1						1						1	
	生活環境科								1		1		2						2	
	放射能科								1		1		2						2	
現在員合計	1	4		5	1	1	4	1	9	2	17	7	42	2	3		6		53	

() 兼務

(2) 職員名簿

(平成元年4月1日現在)

部 名	科 名	職 名	氏 名	事 務 分 担	備 考	
		所 長 次 長 専門調査員	方波見 重兵衛 森 本 功 村 尾 美代子	所内統括 所長補佐 化学部長兼務 ウイルス科長兼務	医師 薬剤師	
庶 務 部		部 長 主 任(事) 主 任(事) 主 任(事) 主 任(事) 主 任(技) 主 任(技)	石 井 秀 正 近 藤 八重子 田 口 春江 大 熊 清 志 金久保 富治夫 塩 原 健 司 和 田 義 信	部内統括, 人事, 財産管理 経理, 物品管理 給与, 研修, 経理 経理, 文書, 福利厚生 予算, 物品, 庁舎管理 庁用車運転管理 庁舎管理, 動物飼育管理		
疫 学 科	部 長		吉 岡 勝 平	部内統括		
	疫 学 科	科 技 長 師	田 中 章 男 林 英 登 樹	科内統括, 疫学の調査研究 疫学の調査研究	臨床検査技師	
	ウイルス科	科 長(兼) 主 任(技) 主 任(技) 主 任(技能)	村 尾 美代子 戸 谷 和 男 大 塚 孝 康 酒 井 正 子	科内統括, ウイルス学的検査研究 ウイルス学的検査研究 ウイルス学的検査研究 試験検査補助	薬剤師 臨床検査技師 獣医師	
病 理 細 菌 部		部 長	奥 山 雄 介	部内統括, 細菌学的検査 血清学的調査研究	獣医師	
	臨床病理科	主 任(技) 主 任(技)	河 橋 幸 恵 井 上 豊	生化学的検査, 血清学的検査研究 生化学的検査, 血清学的検査研究	薬剤師 薬剤師	
	細菌科	科 長 主 任(技) 技 師 主 任(技能)	大 関 瑤 子 山 本 徳 栄 倉 園 貴 至 島 田 サ ト	科内統括, 細菌学的検査研究 細菌学的検査研究 細菌学的検査研究 試験検査補助	臨床検査技師 獣医師	
	感染症科	科 長 主 任(技)	首 藤 栄 治 石 原 ひろみ	科内統括, 細菌学的, 血清学的調査研究 細菌学的, 血清学的調査研究	獣医師 臨床検査技師	
化 学 部		部 長(兼)	森 本 功	部内統括, 医薬品等検査研究 水質検査研究		
	薬 剤 科	科 長 主 任(技) 主 任(技) 主 任(技) 主 任(技)	石 野 正 蔵 野 坂 富 雄 渡 辺 富 士 雄 高 橋 邦 彦 只 木 晋 一	科内統括, 医薬品等検査研究 医薬品, 毒劇物等検査研究 医薬品, 毒劇物等検査研究 医薬品, 毒劇物等検査研究 医薬品, 毒劇物等検査研究	薬剤師 薬剤師 薬剤師 薬剤師 薬剤師	
		飲料水科	科 長 主 任研究員 主 任(技) 主 任(技)	北 川 豊 明 広 瀬 義 文 鈴 木 章 竹 澤 富 士 雄	科内統括, 水質検査研究 水質検査研究 水質検査研究 水質検査研究	薬剤師 薬剤師

部 名	科 名	職 名	氏 名	事 務 分 担	備 考
食品衛生部		部 長	能 勢 憲 英	部内統括, 食品等化学的調査研究	薬剤師
	食品化学科	科 長	星 野 庸 二	科内統括, 食品化学検査研究	薬剤師
		主任(技)	松 本 隆 二	食品化学検査研究	
		主任(技)	堀 江 正 一	食品化学検査研究	
		主任(技)	飯 島 正 雄	食品化学検査研究	
		主任(技)	齊 藤 貢 一	食品化学検査研究	
		技 師	神 戸 正 美	食品化学検査研究	
		主任(技能)	土 屋 みつ子	試験検査補助	
	食 品 微 生 物 科	科 長	徳 丸 雅 一	科内統括, 食品汚染細菌検査研究	獣医師 獣医師 獣医師 獣医師 獣医師
		主任研究員	正 木 宏 幸	食品汚染細菌検査研究	
主任(技)		板 屋 民 子	食品汚染細菌検査研究		
主任(技)		青 木 敦 子	食品汚染細菌検査研究		
主任(技)		齊 藤 章 暢	食品汚染細菌検査研究		
主任(技能)		川 口 千鶴子	試験検査補助		
環境衛生部		部 長	宮 沢 正 治	部内統括	臨床検査技師
	生物環境科	科 長	高 岡 正 敏	科内総括, 寄生虫原虫等検査研究 衛生害虫等検査研究	獣医師
		主任(技)	浦 辺 研 一		
放射能科	科 長	中 沢 清 明	科内総括, 放射能測定, 分析調査研究 放射能測定, 分析調査研究		
主任(技)	三 宅 定 明				

10 著者名索引

太字は筆頭者，*は当
所職員以外の者である。

- A
青木 敦子 110 141
- B
馬場 真美子* 141 142
- F
藤田 昌彦* 136 137 139 139 140
- H
羽賀 道信* 142
浜田 尚樹* 138
長谷川 省* 142
早野 厚子* 142
林 英登樹 25 30 91 133
広川 徹* 141
広瀬 義文 121 137 137
堀江 正一 69 137 138 138 139 139 139 140
堀越 将城* 140
星出 博子* 62 136
星野 庸二 69 73 104 107 125 133 137 138
138 139 139 139 140 140
- I
飯島 正雄 69 107 125 133 133
井上 豊 57
石原 ひろみ 102
石井 永* 135
石野 正蔵 62 119 135 135 135 136 136
板屋 民子 110 140 141
- K
神戸 正美 69 73 125
方波見 重兵衛 30 79 133 133 141 142
川名 孝雄* 141
河橋 幸恵 57
北井 暁子* 30 91 133
北川 豊明 64 121 136
菅野 三郎* 137 137
小山 清隆* 135
菊池 好則* 69 133
国友 順* 135
倉園 貴至 50 113 116 134 135
- M
前田 和子* 25
- 前田 範子 137 137
正木 宏幸 110 133
松本 幸次郎* 62 136
松本 隆二 69 73 104
峰岸 文江* 141
三宅 定明 129
宮澤 正治 79 84 129 141 141 141 142
森本 功 62 119 121 135 135 135 136 136
望月 恵美子* 140
村尾 美代子 91 97 134 134 134
- N
中澤 清明 129 133 141 141 142
中澤 裕之* 134 138 138 139 139 139 140 140
名取 信策* 135 135
野島 一宏* 137 137
野本 かおる* 57
能勢 憲英 69 73 104 107 110 125 133 137
138 138 139 139 139 140 140
野坂 富雄 62 119 135 135 136
- O
大関 瑤子 50 113 116 134 135
大塚 孝康 91 97 134 134
大谷 武司* 137 137
奥山 雄介* 50 57 102 113 116 134 135
- S
志田 保夫* 137 139
斉藤 章暢 110 141
斉藤 貢一 69 137 138 138 139 139 139 140
140
首藤 栄治 102 133
砂押 克彦* 116 134 135 142
鈴木 章 25 121 133
鈴木 澄子* 136
- T
高橋 邦彦 62 119 136 136
高岡 正敏 79 135
武井 伸一* 79 141 142
竹澤 富士雄 64 121
只木 晋一 62 119 135 136
田中 章男 25 30 91 133 133 133
田中 誠* 30 133
土屋 久幸* 30 133
土屋 みつ子 69 104

手嶋 力男 *	134
徳丸 雅一	110 134 141
戸谷 和男	91 97 134 134

U

浦辺 研一	79 84 141
-------	-----------

W

渡辺 富士雄	62 119 135 135 135 136
--------	------------------------

Y

山本 徳栄	50
山本 はるえ *	141
吉岡 勝平	25 30 133

11 埼玉県衛生研究所報投稿規程（平成元年10月改正）

- 1 所報は、埼玉県衛生研究所で行った試験検査業務、調査研究、資料等を掲載する。投稿は、本所職員に限る。ただし、本所職員以外の共著者がある場合には、その所属を*印を用いて欄外に入れる。

例 * 中央保健所

2 衛生研究所報の内容

- 1) 沿革
- 2) 組織及び事務分掌
- 3) 職員
- 4) 業務報告
- 5) 総説 各種論文に基づく総説。
- 6) 調査研究 論文、ノート、短報。印刷物として未発表であり、新知見を含むものとする。
- 7) 資料 調査資料、統計。
- 8) 紹介 過去1年間の他誌発表論文及び学会発表の内容紹介。
- 9) 著者名索引
- 10) 投稿規定

3 調査研究の形式

形式は、序論（緒言、はじめに）、方法（実験方法、調査方法、材料及び方法）、結果（成績、結果及び考察）、要約（まとめ）、謝辞、文献の順とする。

4 紹介の形式

他誌発表のものは次の例による。

例 題名
氏名
日本公衛誌（1974）：21（10）123—129。
要旨（400字以内）

学会発表（口頭）のものは次の例による。

例 題名
氏名
要旨（800字以内）
日本薬学会第105年会（1984）：金沢

5 原稿の書き方

- 1) 原稿は、所定の原稿用紙A4判（20×20字）に横書きで記載する。ワードプロセッサを用いる場合は、A4判に（1行の字数は25字とし、行は20行までとする）横印刷する。枚数は原則として、総説40枚、論文30枚、ノート15枚、短報8枚、資料10枚とする。ただし、規定枚数は、表、図及び写真を含む。
- 2) 調査研究及び資料の原稿には表題と著者名をつける。見出しは、原稿の真中に、上下1行をあけて書く。各見出し後の細部の各項目には、次の順序に数字をつける。1, 2, ……、1), 2) ……、(1), (2) ……。
- 3) 数字はすべてアラビア数字を用い、文章は原則と

して現代かなづかいで、当用漢字を使用する。用字用語等については、原則として埼玉県発行「文書事務の手引」による。

- 4) 文章中の句読点（,、。）、かっこ（ ）は1字に数え、-（ハイフン）は区画の中に明瞭に記入する。
- 5) イタリック体となる字の下には、———をつける。（例：E. coli）
- 6) 数量の単位は、m, cm, mm, μ m, nm, L, ml, kg, g, mg, ng, pg などを用いる。
- 7) 表、図の原稿及び写真は、別に、専用原稿用紙、または同型の紙に貼りつけ、本文の後につづり合わせる。表、図及び写真を入れる位置は、本文中の右欄外に矢印（←表1）で指定する。表及び図に関する注釈は、本文中には入れない。
例：表2 分離菌株の薬剤耐性
（表の上の中央に記載）
図3 果実中の残留農薬
（図の下の中央に記載）

Table 及びFig.などの英字を用いる場合は、表及び図全体について英字を用い、英文タイプ、またはレタリングを使用する。

- 8) 図は、A4判以下の大きさの平滑な白紙または青色グラフ用紙に黒インキで書く。図の印刷は、原則的には著者のものを用いるが、図中の文字につき活字の使用を希望することもできる。また、図のトレースを希望することもできる。図の大きさに希望があるときは、大体の大きさを指定する。
- 9) 引用文献は、山本¹⁾、赤痢菌²⁻⁵⁾のごとく1区画を与えて右肩に示し、最後に一括して列記する。
- 10) 文献の記載は次の例による。

例：

- 1) 高島 英伍（1981）：畜水産用薬物の現状と問題点、衛生化学、27、127—143。
- 2) Ames, B. N. (1979)：Identifying environmental chemicals causing mutations and cancer, Science, 204, 587—593。
- 3) 善養寺 浩、寺山 武（1978）：微生物検査必携 細菌真菌検査 第2版、264—276、日本公衆衛生協会（東京）。

- 11) 脚注は、*印を用いて欄外に記入する。

6 原稿の提出及びその取扱いについて

- 1) 原稿は、所属部長を経て編集委員に提出する。提出された原稿については、編集委員会で検討を加える。
- 2) 編集委員会は、所長、次長及び各部から選出された編集委員で構成し、次長を委員長とする。

3) 校正時の原稿の改変は認めない。どうしても必要なものは正誤表による。

4) 初校及び二校は著者，三校（以後）は編集委員が行う。

所報編集委員

（アルファベット順）

石 井 秀 正
石 野 正 蔵
方波見 重兵衛
森 本 功*
村 尾 美代子
中 澤 清 明
能 勢 憲 英
奥 山 雄 介
（*編集委員長）

埼 玉 県 衛 生 研 究 所 報

第 23 号

平成 2 年 3 月印刷
平成 2 年 3 月発行

編集及び発行所 埼 玉 県 衛 生 研 究 所
浦和市上大久保東 639-1 〒338
電話 048-853-6121
印 刷 所 株 式 会 社 太 陽 美 術
浦和市常盤 1-3-9
電話 048-824-3261
